

水辺の活動に関するアンケート 調査結果



一般社団法人


吉川慎之介記念基金

Shinnosuke Memorial Foundation

2021年5月

目次


1. 調査概要	…	3
2. 調査結果のまとめ	…	5
3. 調査結果の詳細	…	15
4. 自由回答の分析	…	31
5. 参考資料(調査票)	…	36



1. 調查概要

1. 調査概要

項目	内容
調査の目的	子どもと同居する保護者の、ライフジャケットや学校における水泳教育等に関する意識、実態を把握するために実施。
調査の方法	インターネット調査(定量)
実施対象	調査会社(インテージ)に登録するモニターのうち、以下の条件に当てはまる人を無作為に抽出して実施。 <ul style="list-style-type: none">・ 小学校1年生から中学校3年生の長子と同居している かつ・ 日本国内に住んでいる25-50歳の女性
サンプル数	<ul style="list-style-type: none">・ 長子が小学生の保護者 .. 284サンプル・ 長子が中学生の保護者 .. 284サンプル
聴取内容	<ul style="list-style-type: none">・ 今後、子どもと海や川に遊びに行きたいか・ 海や川での事故に関する認識・ 学校教育における出師授業の中で必要だと思うことから・ 海や川で遊ぶ際のライフジャケットの必要性に関する考え・ ライフジャケットの着用方法等に関する自信の程度・ (属性情報)性別、年齢、居住エリア、同居する長子の学齢



2. 調査結果のまとめ



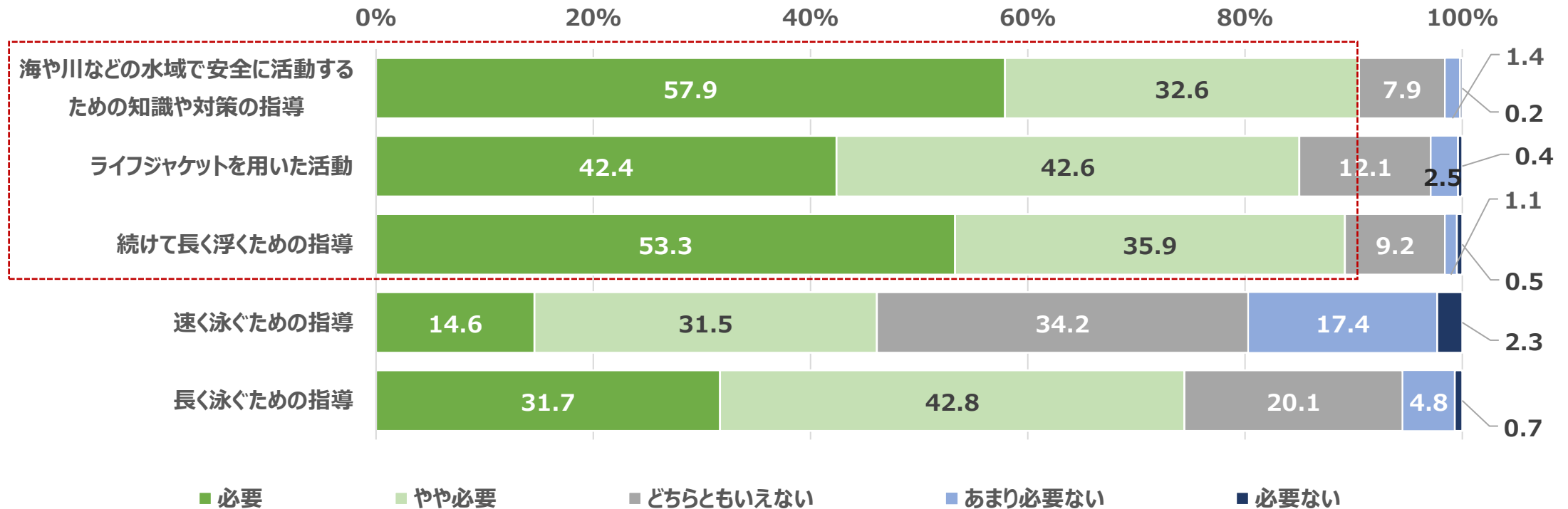
2. 調査結果のまとめ

- (1) 学校の水泳教育に求めるのは「泳法」ではなく、安全な水辺での過ごし方等のリスク管理教育

① 学校の水泳教育の中で必要なのは「水辺の安全教育」

- ✓ 学校における水泳教育の中で必要だと思うことのトップは「海や川などの水域で安全に活動するための知識や対策の指導」。次いで「続けて長く浮くための指導」、「ライフジャケットを用いた活動」となっている。
- ✓ 「速く泳ぐための指導」や「長く泳ぐための指導」は上記3つと比較すると相対的に必要度は低く、「水辺でいかに安全に過ごすか」といったことへの要望が強い。

Q6「学校教育における水泳授業」の中で、あなたは以下についてどの程度必要だと思いますか。

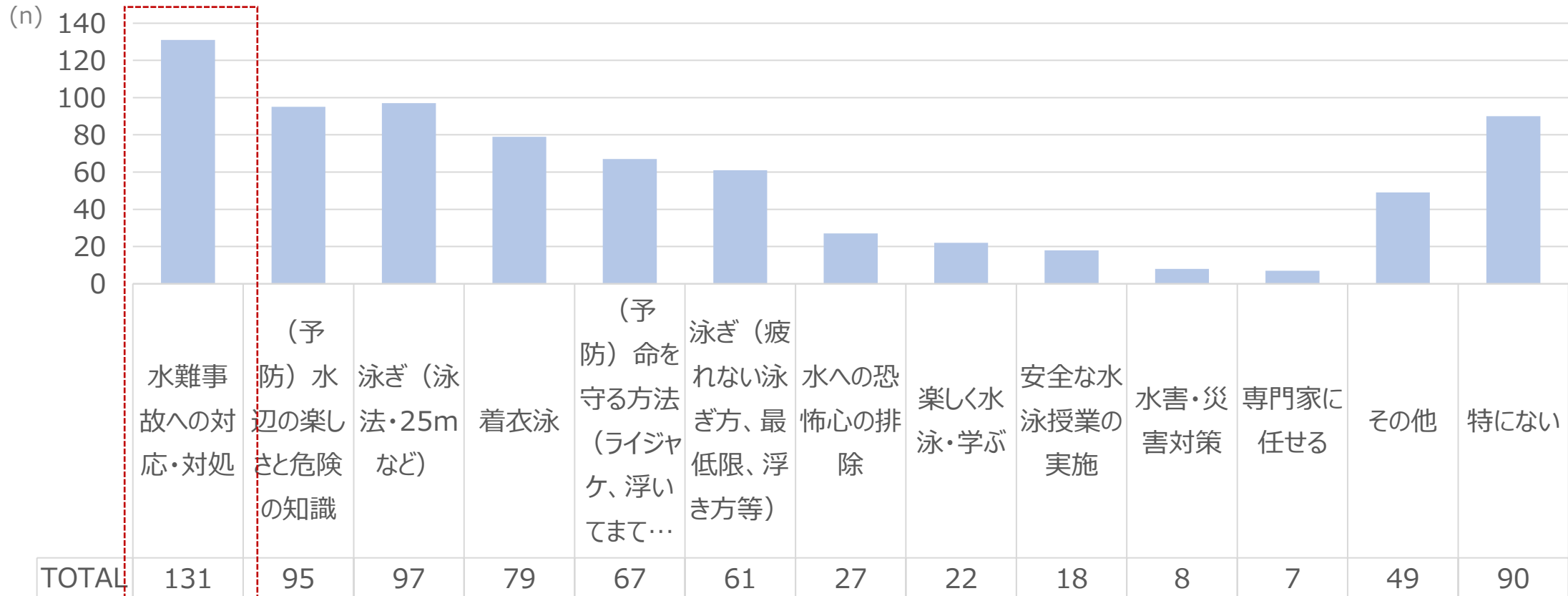


(各回答者数 n=568)

② 具体的に求めることは「水難事故への対応・対処」がトップ

- ✓ 具体的に学校の水泳教育に求めることを自由回答で得たところ、「水難事故への対応・対処」に関連する回答が他回答を大きく上回って多かった。25m泳ぐ、正しい泳法等、いわゆる泳法に関する教育は上位に挙がるものの、それ以外の回答はほとんど全て、「リスクへの対処」「未然に防ぐための知識」が占めている。

Q9 学校教育における水泳授業について、あなたが期待することを自由に記入してください。



※自由回答の内容をコーディング (=類似した内容のカテゴリ化)。1つの文章に2つ以上のカテゴリが含まれる場合もあるためTOTAL数は回答者数と一致しない

② 具体的に求めることは「水難事故への対応・対処」がトップ

✓ 自由回答の具体的な内容は以下の通り。(上位より4つ)

水難事故への対応・対処

- 25メートル泳げるようになることよりも、溺れたときの対処法を教える方が大事だと思います(30代、小6)
- 泳ぎだけではなく、もし何かあった時の対処法や正しい動き、事故を見かけた際に行うべき行動などを教えてほしい。(20代、小2)
- 水の恐ろしさや溺れた時の対処や、着衣水泳の時の対処法など早く泳ぐだけでなく水難に対処の仕方を教えて欲しい。(40代、中3)
- 泳法については学校教育における水泳授業には期待しておらず、スイミングスクールに通わせています。学校では、水難事故の怖さや防止する為の心構え、着衣入水の体験やいざというときに身を守る術を指導していただけることを期待します。(30代、小2)
- 水に入る前の準備運動の大切さ 自然環境下での遊泳の難しさや、不慮の事態の対処方法を話す時間を設けて欲しい(40代、小4)
- 溺れかけたときの対処法や溺れないための泳ぎ方等(40代、小4)
- 水難事故のことなども、子どもたちに教えてもらえたら、有難いと思う。(40代、小3)
- 遊ぶだけでなく、水の危険性や遭難したときの対処方法なども教えてほしい。(40代、小2)

(予防) 水辺の楽しさと危険

- 泳ぐ楽しさと共に、危険性(40代、小1)
- 川や海など水辺で気をつけなければいけないことの指導。川は流れが急に速くなったり急に深くなったりするなど知識を教えていただけたらいいです。(30代、小3)
- 水場の注意点や安全に泳ぎを教えてほしい(40代、小2)

泳ぎ(泳法・25mなど)

- 基礎基本からクロール25メートル泳げるくらいまでは教えてほしい(40代、中3)
- 泳ぎ方、息つぎのしかたをしっかりと教えてほしいです。(40代、小6)
- きちんと泳げるようになること(30代、小1)
- 正しい泳ぎ方(30代、小1)

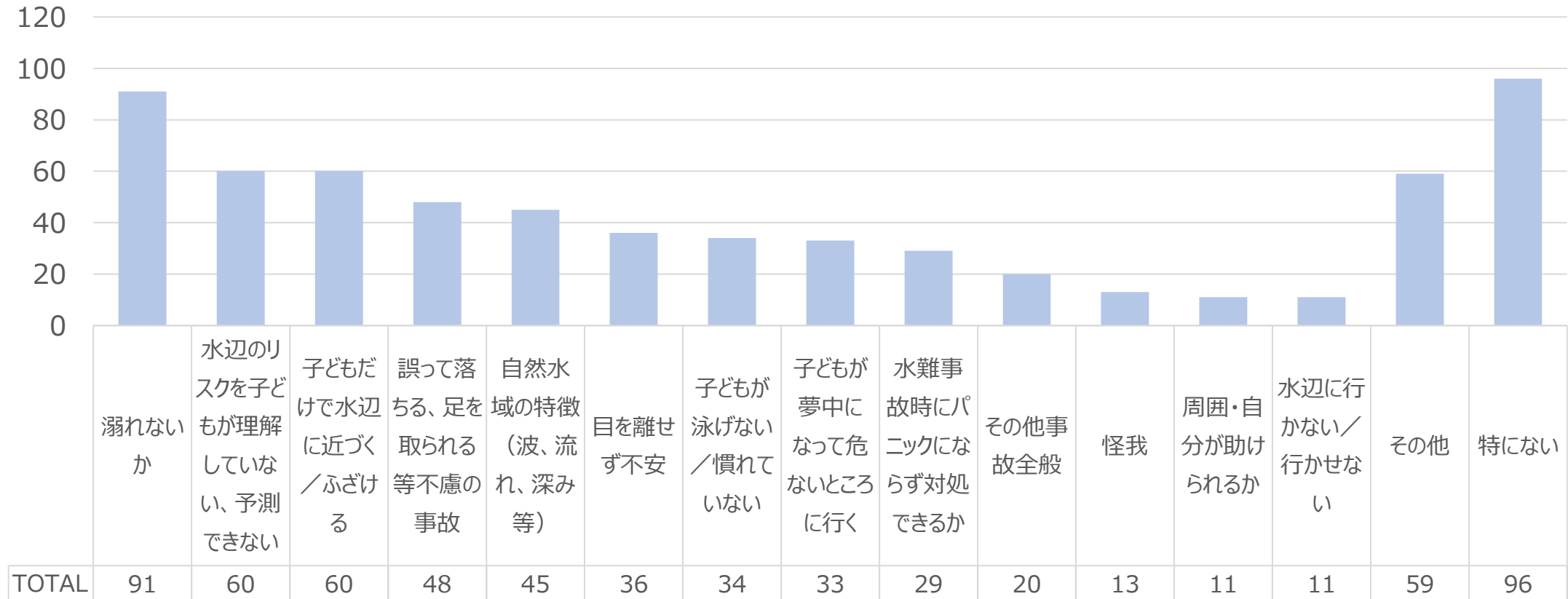
着衣泳

- 服を着たまま、靴を履いたままでの水の中の動きにくさ、泳ぎにくさを体感させてほしい(40代、小2)
- 実践に近い事を想定した授業が良い。着衣水泳や足がつった時の泳ぎ方など。(40代、小1)

③ 多くの保護者が事故の発生を懸念している

- ✓ 水辺の活動で最も懸念されているのは、「溺れないかどうか」ということ。
- ✓ 保護者自身は水辺が危ないことは理解しているが、子ども自身の知識や理解が足りないこと、子どもだけで行動してしまうことなどに不安を覚えていることから、学校水泳教育等で水辺のリスクについて伝えることも重要。

Q10 お子様の水辺の活動時に不安を感じることを自由に記入してください。



※自由回答の内容をコーディング（＝類似した内容のカテゴリ化）。1つの文章に2つ以上のカテゴリが含まれる場合もあるためTOTAL数は回答者数と一致しない

③ 特に心配なことは、「知識不足やふざけ」による事故

✓ 自由回答の具体的な内容は以下の通り。(上位より4つ)

溺れないか

- 溺れないか心配 子供は溺れると静かだから(30代、小5)
- 泳ぐのが苦手な子供なので、溺れたりしないか心配。(40代、中2)
- 溺れたら。草で見えない、水の音でいなくなったことに気づかない(40代、中1)
- うちの子は水に顔をつけるのもままならない状態なので、もし水に落ちてしまったら溺れてしまうかもしれないので心配。(30代、小3)
- 人知れずおぼれること(40代、小1)
- 着衣時に溺れないか(40代、中2)

水辺のリスクを子どもが理解していない、予測できない

- 流れの早いところがあることを理解しない(40代、中3)
- 川や海など、浅くても流れが速かったり、急に高い波が来たり、深くなっていたり、予期しない、出来ないことがあるかもしれないということを意識していない。(40代、中3)
- 事故は一瞬で起きるという意識をどこまで理解してるか(40代、小3)
- 川で遊ぶ時、流れが早いところにわざと行ってしまう。(40代、小2)
- 危険な箇所、状況だとまだ判断できない部分もあると思うので、予知察知できるかをまずは教えていきたいです。(30代、中2)

誤って落ちる、足を取られる等不慮の事故

- 足を滑らせたりして、落下しないか心配になる。(40代、小6)
- 間違えて深いところまで行かないか不安(40代、中3)
- 浅瀬でも足をとられて溺れることがあるのが怖い。(40代、中3)
- 自然の中での水辺は、足を滑らせたり思いもやらない状況になる可能性もあるため、心配(40代、中3)
- 周りがよく見えていないので、深みにハマったり滑ることが心配。(30代、小3)

子どもだけで水辺に近づく／ふざける

- 特に、友達同士だと、ふざけたり、羽目を外したり、調子に乗ったり、危険なことをしがちなので、子供だけで水辺に近付くことは、とても不安です。(40代、中3)
- 子供だけで水辺で遊びにいったら、と思うと心配。(40代、小2)
- 活動範囲が広がると、足が届かないところに行っていないか、何かトラブルは起こっていないか、など心配になる(40代、中1)
- 友達とふざけていると危険な場所でも行ってしまいそう。(40代、小6)



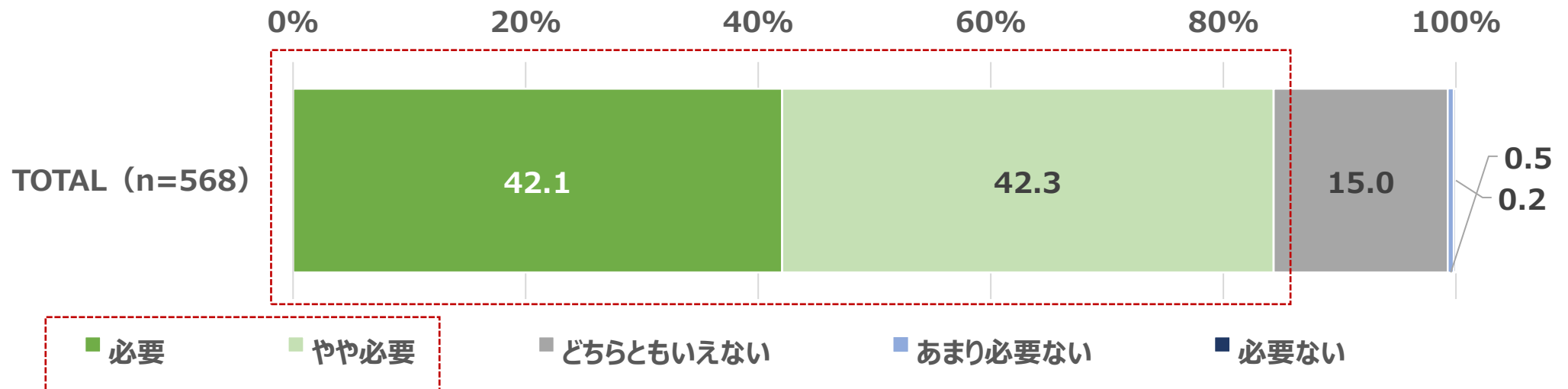
2. 調査結果のまとめ

- (2) ライフジャケットは必要が大多数。
一方で正しい装着等理解は不十分、着用機会等の
促進が求められる。

① 海や川で遊ぶ際に、ライフジャケットは「必要」

- ✓ 子どもが海や川で遊ぶときの、ライフジャケットの必要性については、約8割が必要と回答。
- ✓ 普及は十分ではないものの、多くの人がライフジャケットの必要性は認識していることがわかった。

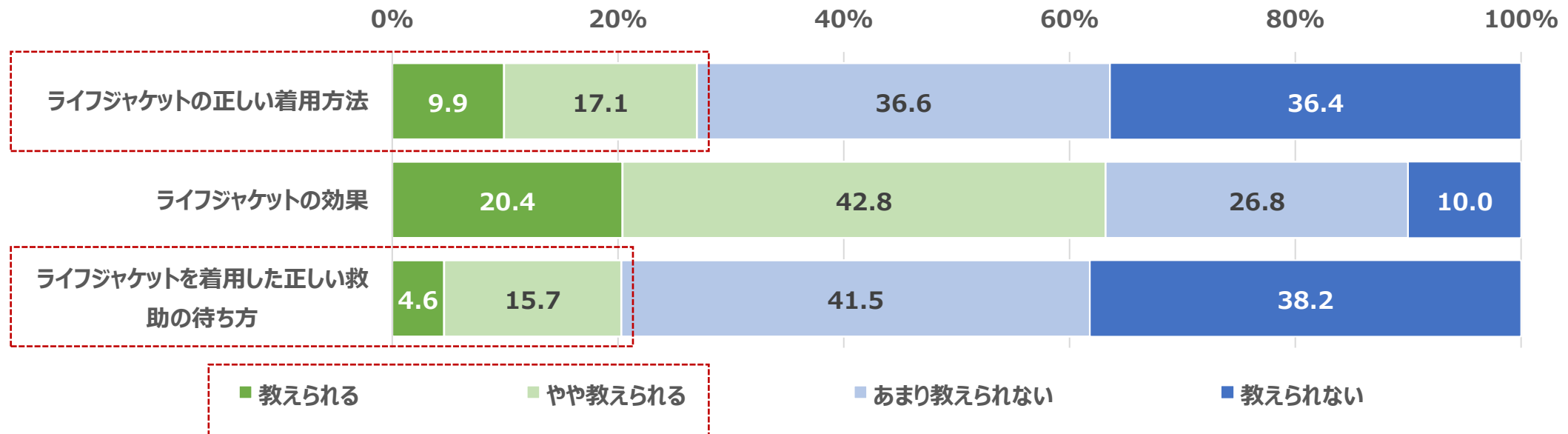
Q7 お子様が海や川で遊ぶとき、ライフジャケットは必要だと思いますか。



② 一方で、正しく効果的な使い方は浸透していない

- ✓ ライフジャケットに関連することについて、子どもに正しく教えられるか確認したところ「ライフジャケットの効果」については6割強の人が「教えられる」（教えられる20.4%、やや教えられる42.8%）と回答した。
- ✓ 一方、「ライフジャケットの正しい着用方法」「ライフジャケットを着用した正しい救助の待ち方」については、「教えられる」「やや教えられる」の合計でも3割を下回っており、正しく効果的な使い方は浸透していないことがわかった。

Q8 あなたは以下について、お子さまに正しく教えられますか。



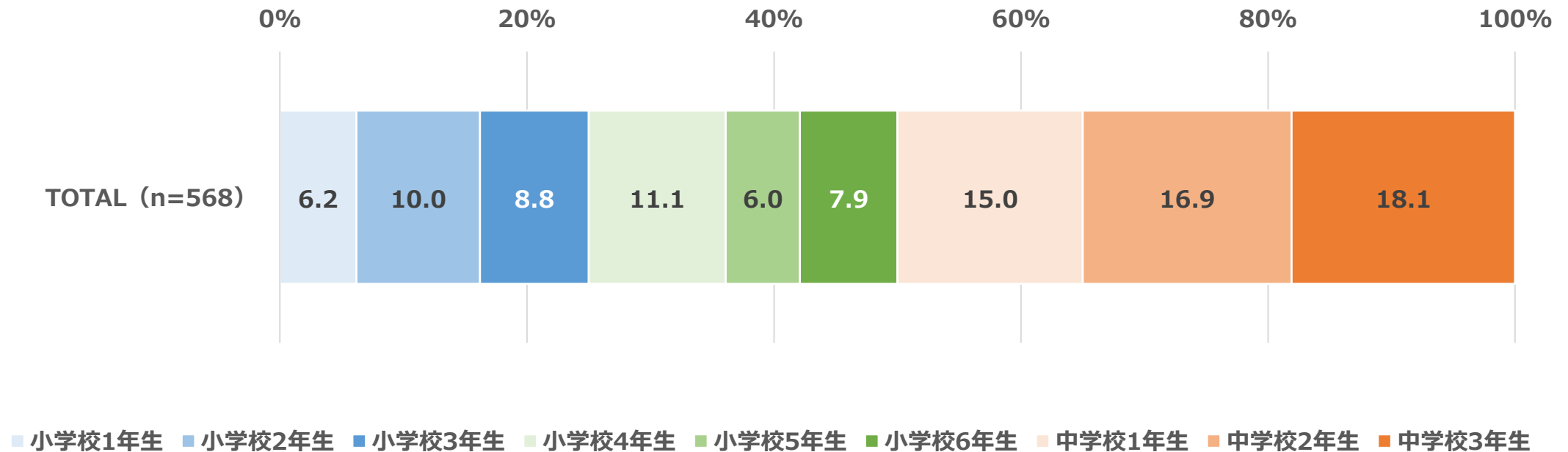
(各回答者数 n=568)



3. 調査結果の詳細

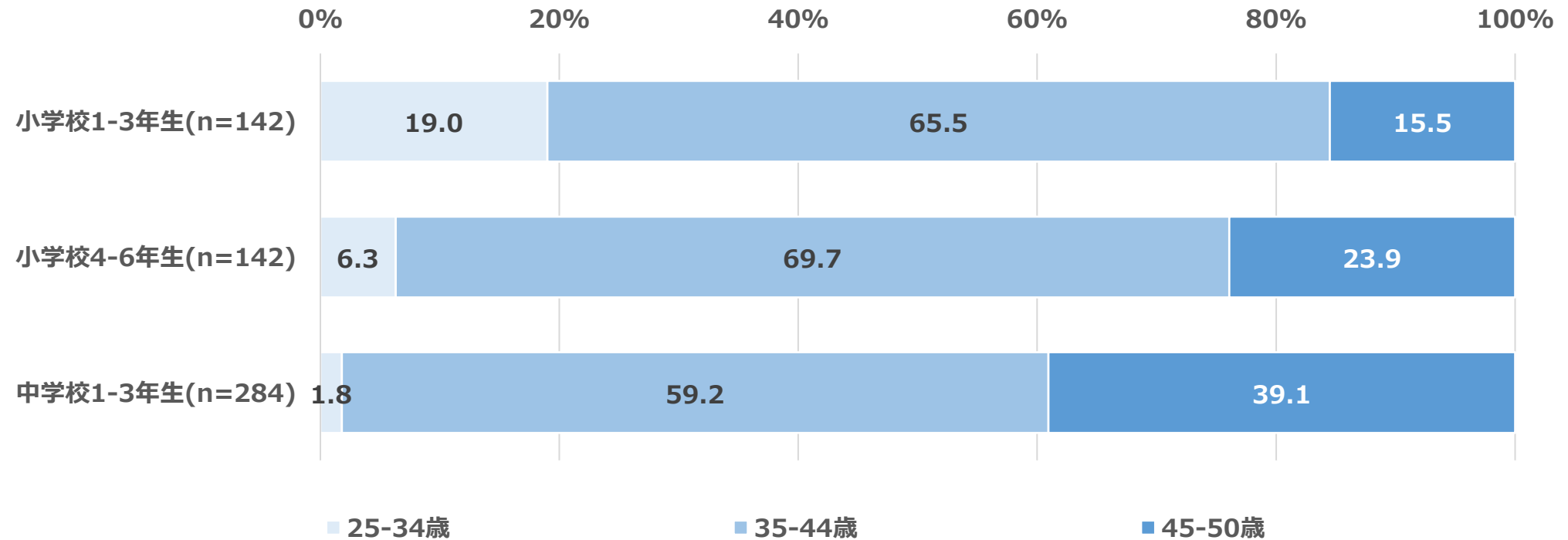
(1) 調査回答者の属性 ①子どもの学齢

- ✓ 回答者の長子は、小学生と中学生、それぞれ5割となるよう設計した。
- ✓ 小学校内の分布では、1-3年生が25.0%、4-6年生が25.0%となっており、低学年と高学年に大きな偏りが無いことが確認できる。



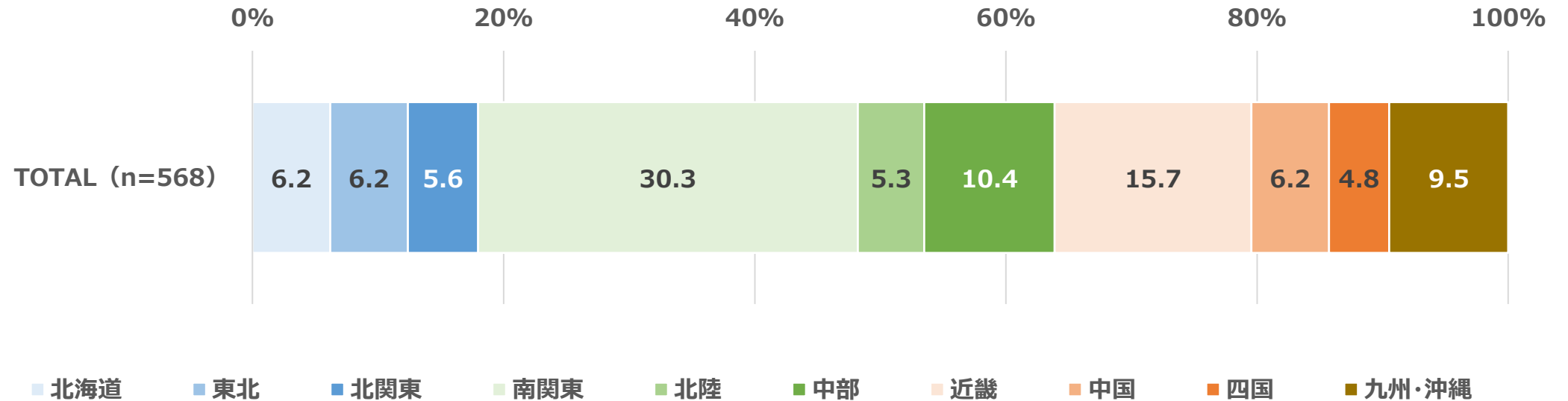
(1) 調査回答者の属性 ②回答者の年齢

- ✓ 回答者の年齢分布を長子の学齢別に見ると、全ての学齢で35-44歳が最も多くなっている。



(1) 調査回答者の属性 ③回答者の居住エリア

- ✓ 回答者の居住エリアは以下の通り。
- ✓ 国勢調査の居住人口の(女性25-50歳のエリア別人口)分布とも大きな乖離はないことを確認している。



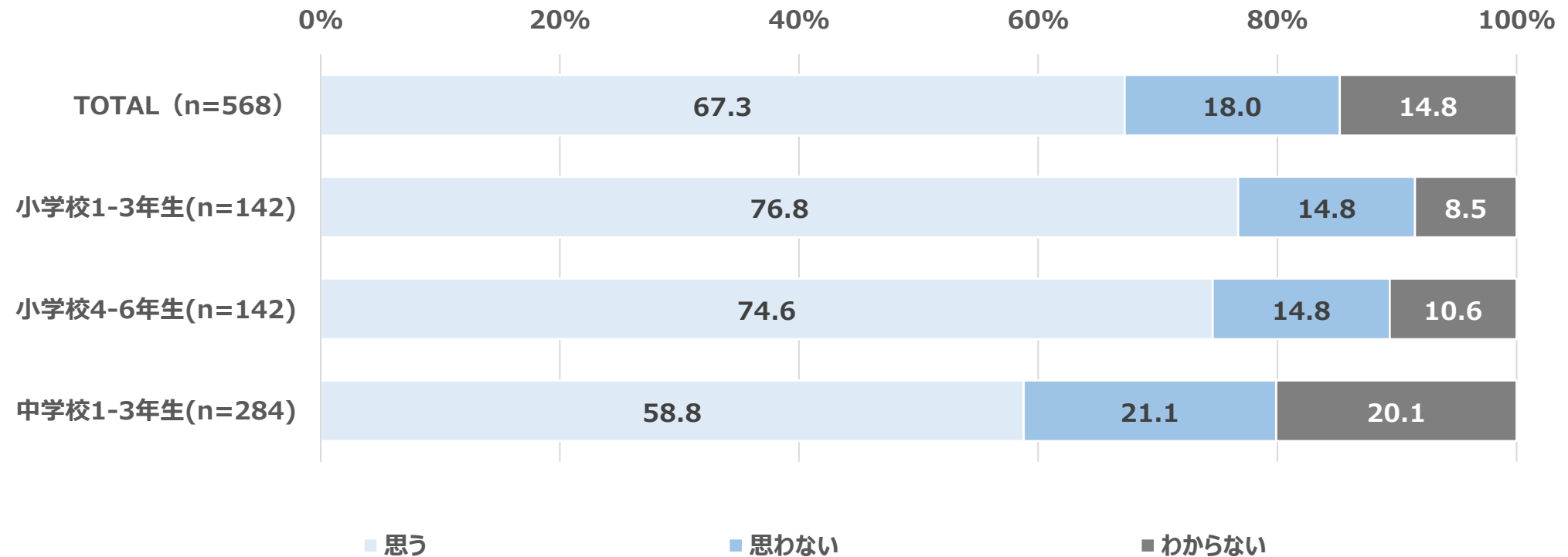
東北・・・青森県、岩手県、秋田県、山形県、宮城県、福島県
北関東・・・群馬県、栃木県、茨城県
南関東・・・東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県
北陸・・・石川県、富山県、新潟県、福井県
中部・・・山梨県、静岡県、長野県、岐阜県、愛知県

近畿・・・滋賀県、三重県、和歌山県、大阪府、京都府、奈良県、兵庫県
中国・・・岡山県、広島県、鳥取県、島根県、山口県
四国・・・徳島県、香川県、高知県、愛媛県
九州・沖縄・・・福岡県、長崎県、大分県、宮崎県、鹿児島県、熊本県、佐賀県、沖縄県

(2) 子どもと海や川に遊びに行きたいと思うか

- ✓ 全体では、約7割の保護者が「子どもと海や川に遊びに行きたいと思う」と回答している。
- ✓ 特に、小学校の子どもを持つ保護者でこの傾向が強い。

Q3 今後、あなたはお子さんと海や川などに遊びに行きたいと思いますか？

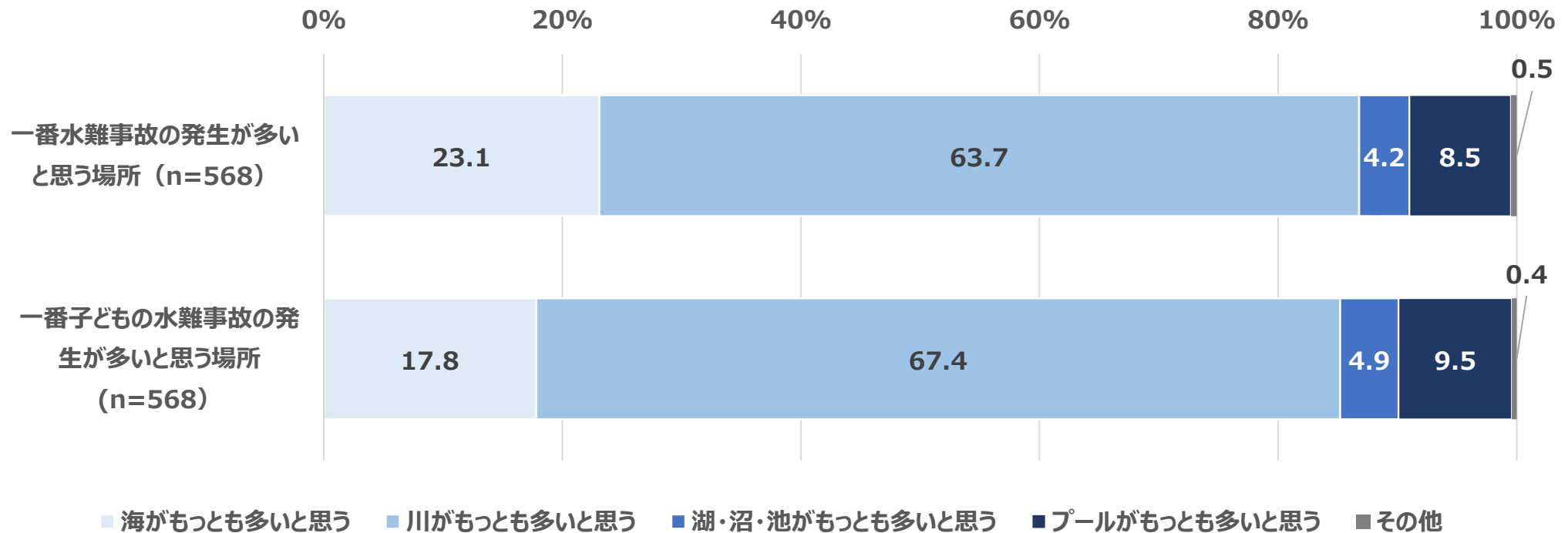


(3) 水難事故（死亡事故）の発生場所に関する認識

- ✓ 最も事故が多いと認識されているのは、「川」。全体の事故、中学生以下の子どもの事故についても同様に半数以上の人々が最も多いと考えている。

Q4 日本では昨年1年間で水難事故によっておよそ800人が亡くなりました。死亡事故が最も多かった場所について、あなたの考えをお聞かせください。

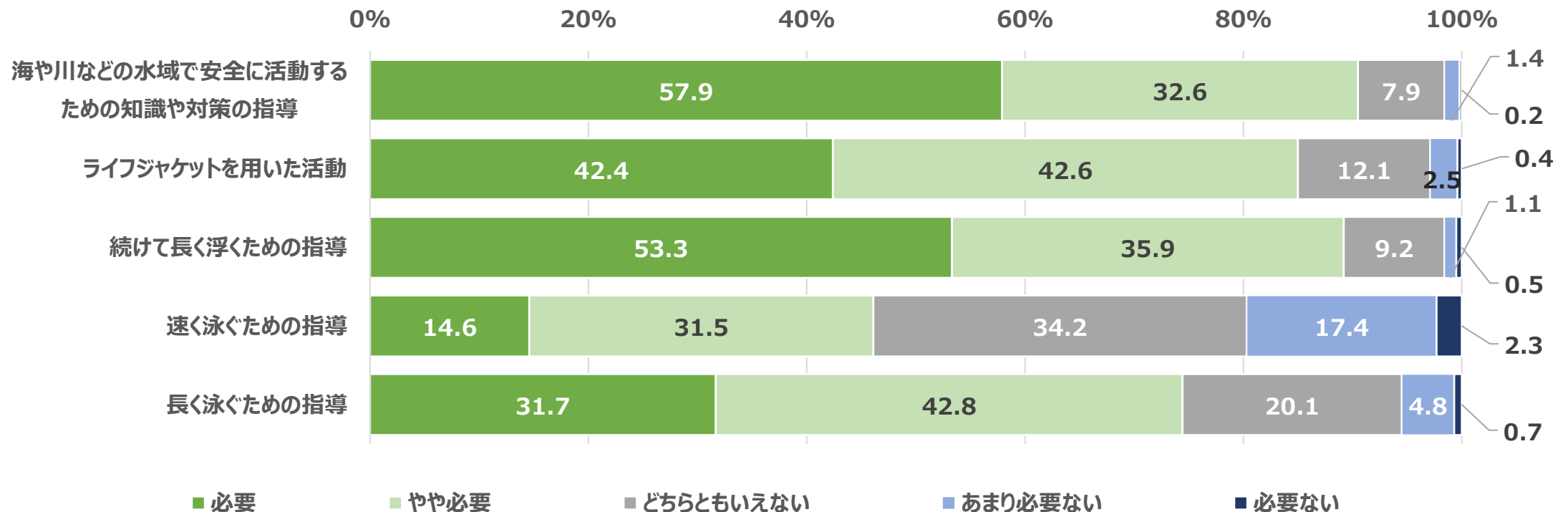
Q5 水難事故によって亡くなられた人の内、子ども（中学生以下）の死亡事故が最も多かった場所について、あなたの考えをお聞かせください。



(4) 学校における水泳教育の中で必要だと思うこと

- ✓ 学校における水泳教育の中で必要だと思うことのトップは「海や川などの水域で安全に活動するための知識や対策の指導」。次いで「続けて長く浮くための指導」、「ライフジャケットを用いた活動」となっている。
- ✓ 「速く泳ぐための指導」や「長く泳ぐための指導」は上記3つと比較すると相対的に必要度は低い。

Q6「学校教育における水泳授業」の中で、あなたは以下についてどの程度必要だと思いますか。



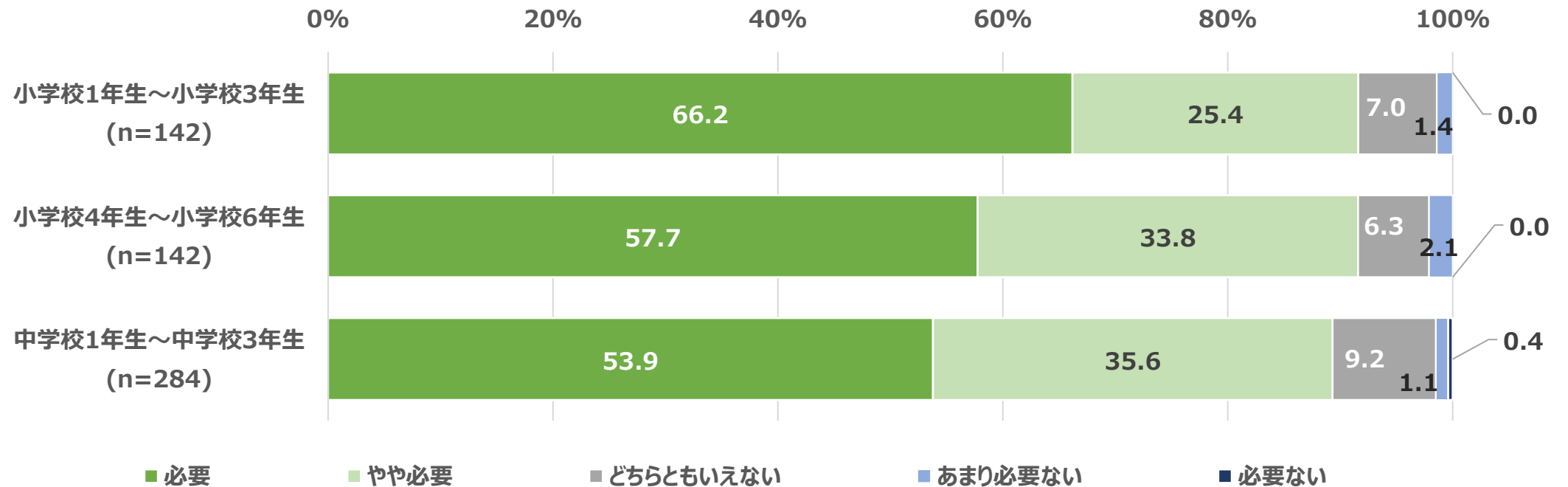
(各回答者数 n=568)

(5) 学齢別 学校における水泳教育の中で必要だと思うこと

① 海や川などの水域で安全に活動するための知識や対策の指導

- ✓ 「海や川などの水域で安全に活動するための知識や対策の指導」。次いで「続けて長く浮くための指導」については、全ての学齢で5割以上の保護者が「必要」と回答しており、「やや必要」まで含めると約9割となっている。
- ✓ 特に小学校低学年の保護者で、特に「必要」と考えている人の割合が高い。

Q6 「学校教育における水泳授業」の中で、あなたは以下についてどの程度必要だと思いますか。

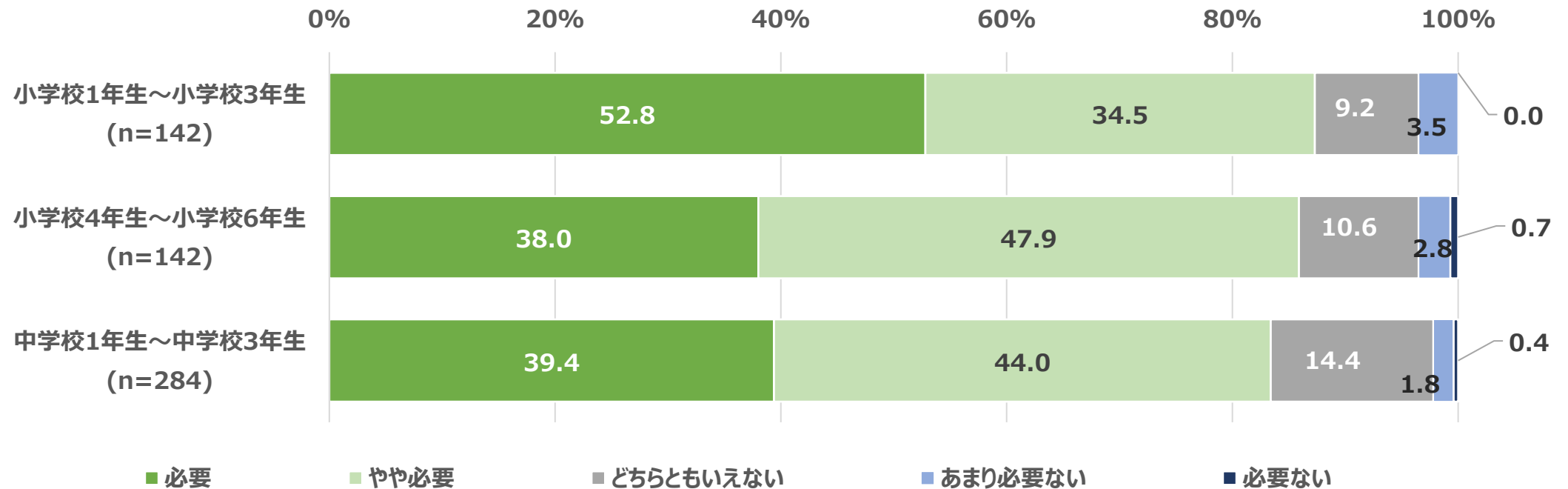


(5) 学齢別 学校における水泳教育の中で必要だと思うこと

② ライフジャケットを用いた活動

- ✓ 「ライフジャケットを用いた活動」は、特に小学校低学年の保護者で「必要」と考える人が多い。
- ✓ 前問と合わせてみても、低学年の保護者は、“安全”に関する教育への関心が高い傾向にある。

Q6「学校教育における水泳授業」の中で、あなたは以下についてどの程度必要だと思いますか。

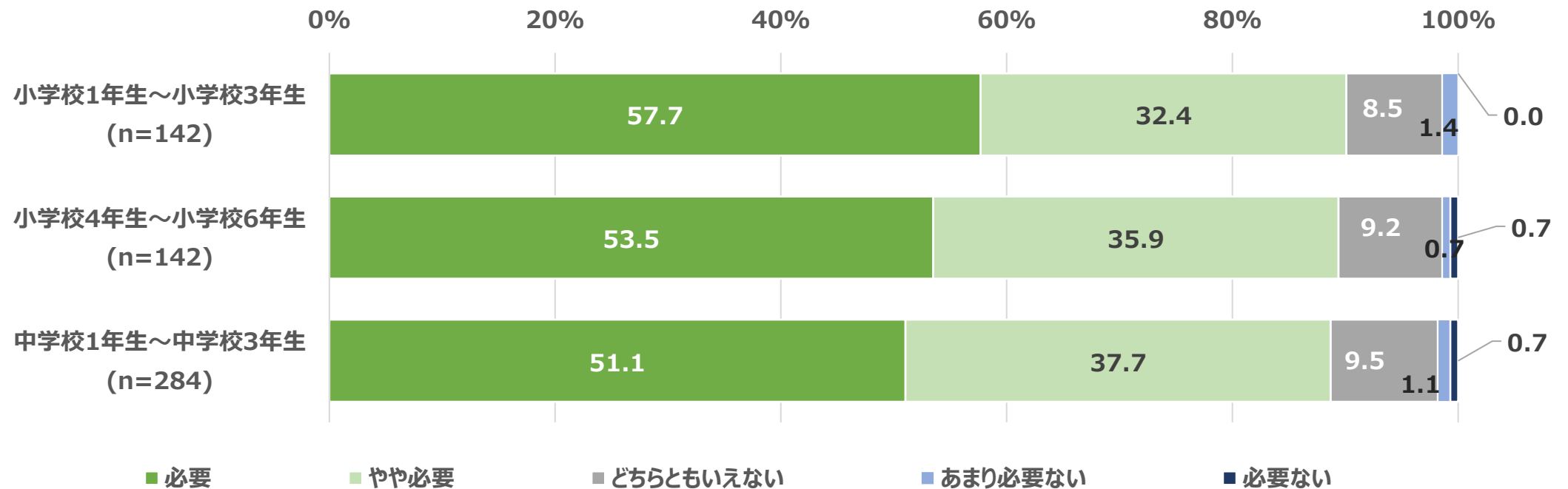


(5) 学齢別 学校における水泳教育の中で必要だと思うこと

③ 続けて長く浮くための指導

- ✓ 「続けて長く浮くための指導」は、全ての学齢で「必要」が5割を超えており、学齢別で傾向に大きな差は見られない。

Q6「学校教育における水泳授業」の中で、あなたは以下についてどの程度必要だと思いますか。



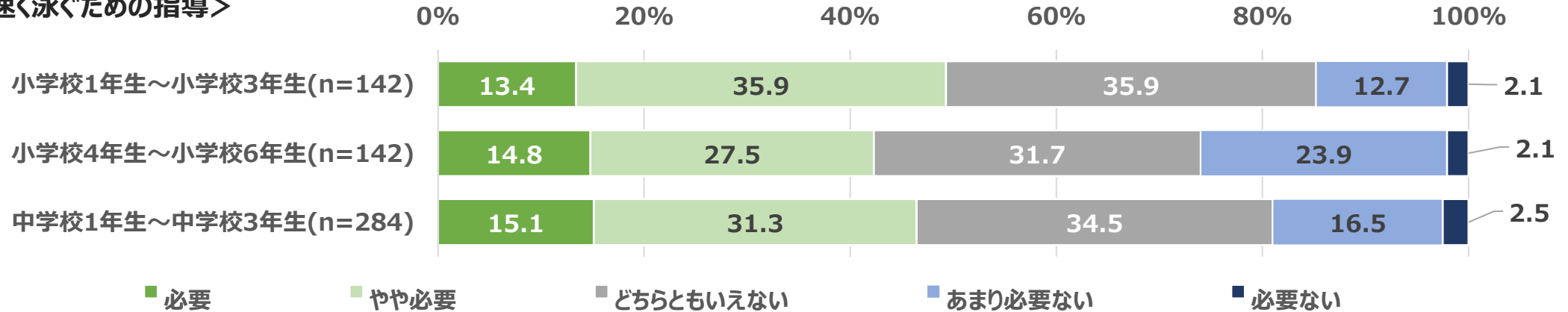
(5) 学齢別 学校における水泳教育の中で必要だと思うこと

④ 速く泳ぐための指導 ⑤ 長く泳ぐための指導

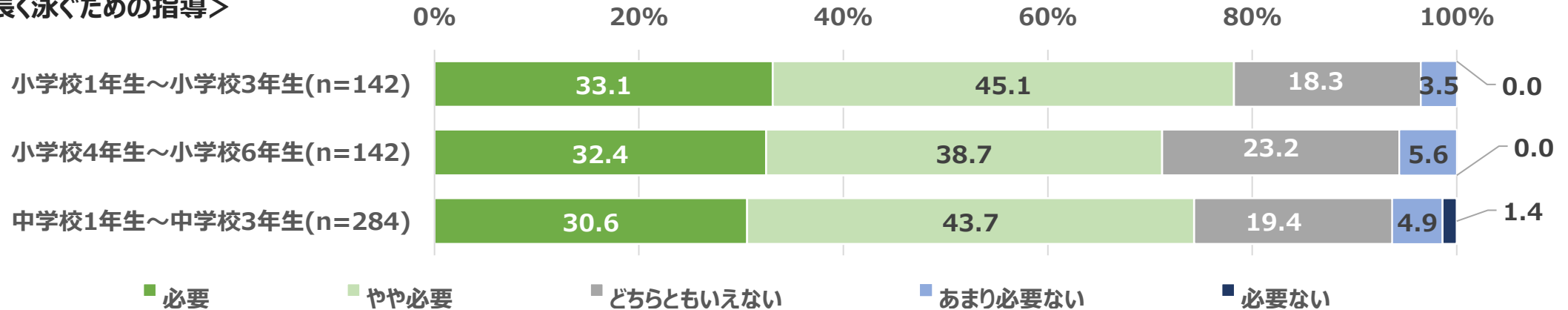
✓ 「速く泳ぐための指導」、「長く泳ぐための指導」の必要性について、学齢ごとの差は見られない。

Q6「学校教育における水泳授業」の中で、あなたは以下についてどの程度必要だと思いますか。

<速く泳ぐための指導>



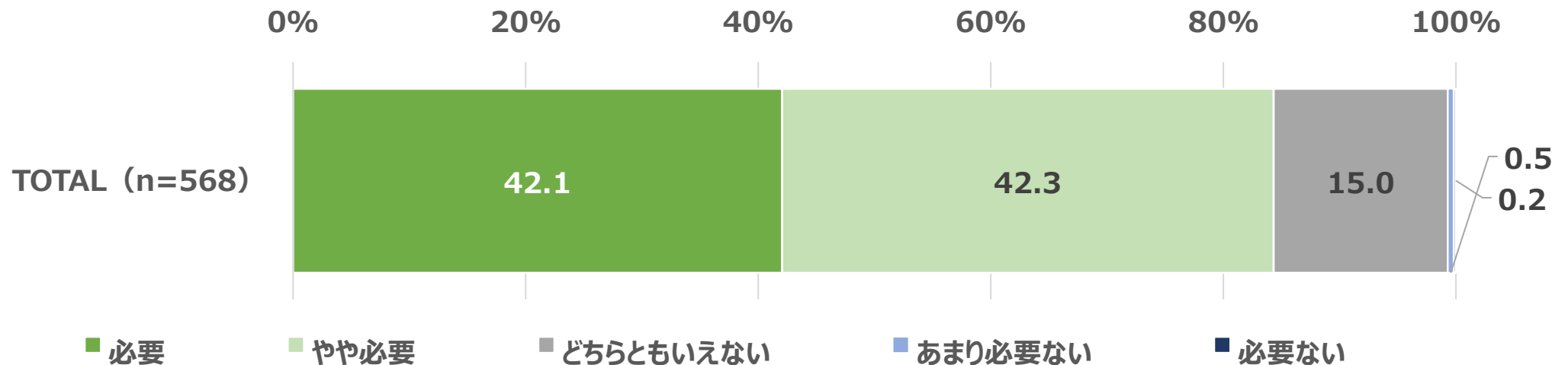
<長く泳ぐための指導>



(5) 子どもが海や川で遊ぶ時ライフジャケットは必要だと思うか

- ✓ 子どもが海や川で遊ぶとき、ライフジャケットは必要だと思うか という質問に対しては、全体で約4割が「必要」、約4割が「やや必要」と回答しており、保護者の大多数は、「ライフジャケットは必要」という認識を持っていることがわかった。

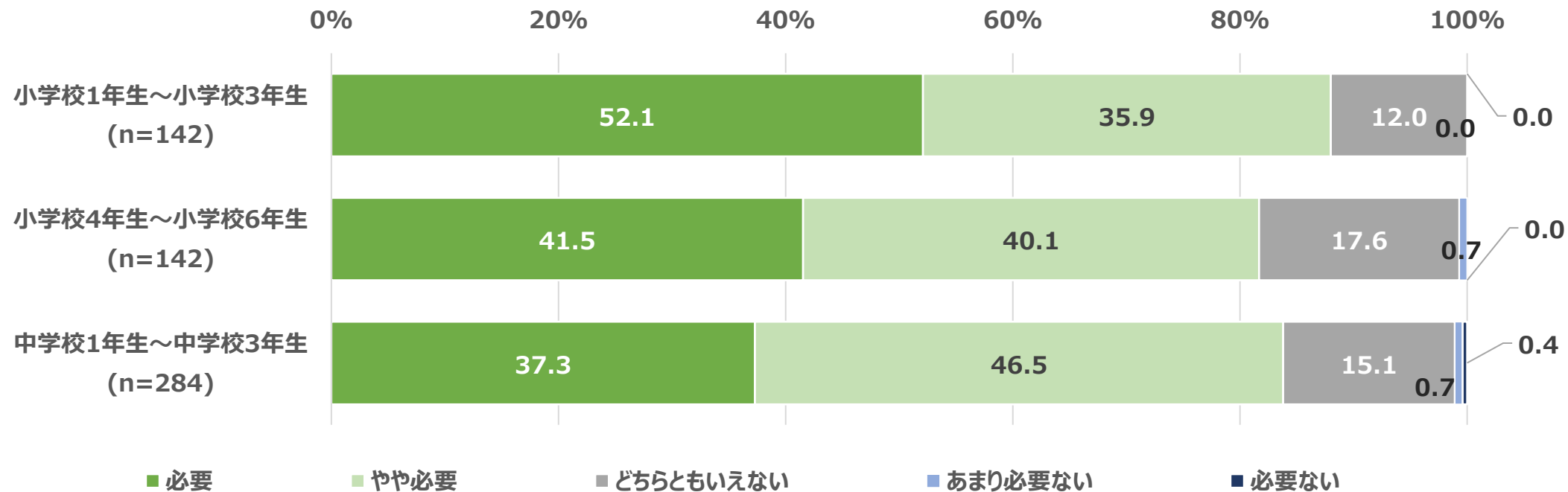
Q7 お子様が海や川で遊ぶとき、ライフジャケットは必要だと思いますか。



(5) 学齢別 子どもが海や川で遊ぶ時ライフジャケットは必要だと思うか

- ✓ 自然の水域で子どもが遊ぶ際のライフジャケットの必要性について、学齢別に回答を確認すると、「必要」と考える人は特に小学校低学年の保護者が多い傾向にある。
- ✓ 学校における水泳教育の設問でも、小学校低学年の保護者は「安全に活動するための知識や対策」や「ライフジャケットを用いた活動」への関心が高かったことから、安全への関心は高い層だと考えられる。

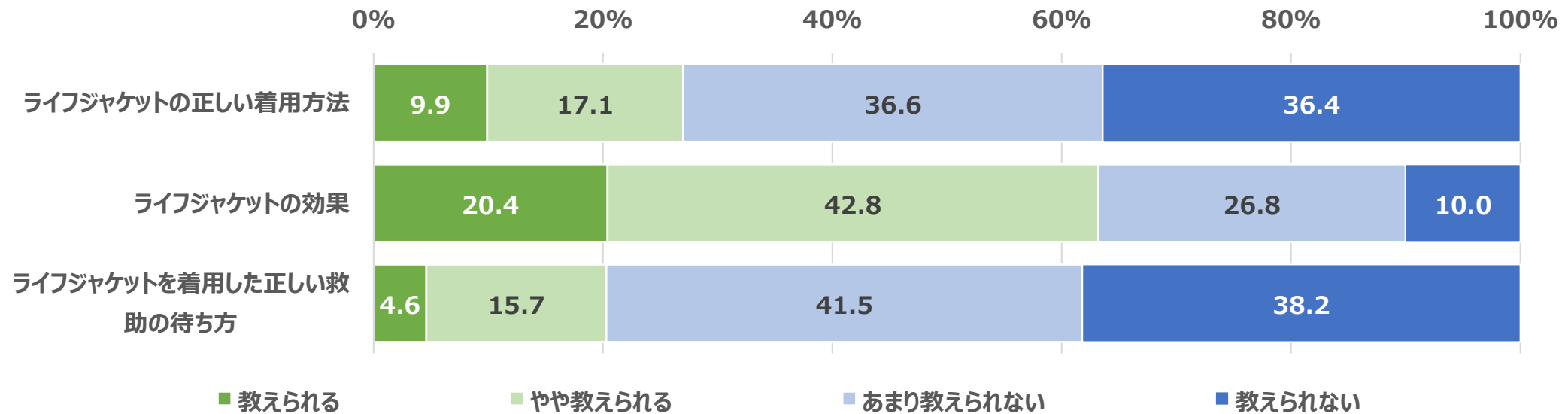
Q7 お子様が海や川で遊ぶとき、ライフジャケットは必要だと思いますか。



(6) ライフジャケットに対する理解

- ✓ ライフジャケットに関連することについて、子どもに正しく教えられるか確認したところ「ライフジャケットの効果」については6割強の人が「教えられる」(教えられる20.4%、やや教えられる42.8%)と回答した。
- ✓ 一方、「ライフジャケットの正しい着用方法」「ライフジャケットを着用した正しい救助の待ち方」など、効果を高める使い方については、「教えられる」「やや教えられる」の合計でも3割を下回った。

Q8 あなたは以下について、お子さまに正しく教えられますか。



(各回答者数 n=568)

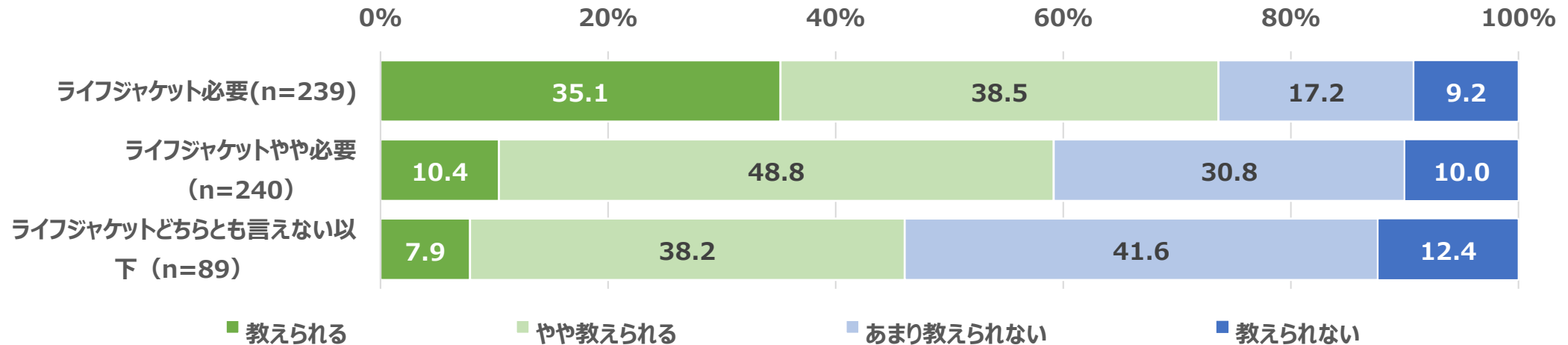
(7) ライフジャケットの必要性認識と、使い方・効果の理解(1/2)

- ✓ 子どもが海や川で遊ぶ際にライフジャケットが必要だと感じている人ほど、ライフジャケットの効果や、正しい着用法、救助の待ち方について理解している傾向にある。一方で、「やや必要」など回答している人は、「あまり教えられない」「教えられない」の割合が高い。
- ✓ 今後、保護者の意識を高めるためには、さまざまなチャンネルを通じて、ライフジャケットの効果等を訴求・理解の促進を求めることが必要。

(表側) Q7 お子様在海や川で遊ぶとき、ライフジャケットは必要だと思いますか。

(表頭) Q8 あなたは以下について、お子さまに正しく教えられますか。

<ライフジャケットの効果>

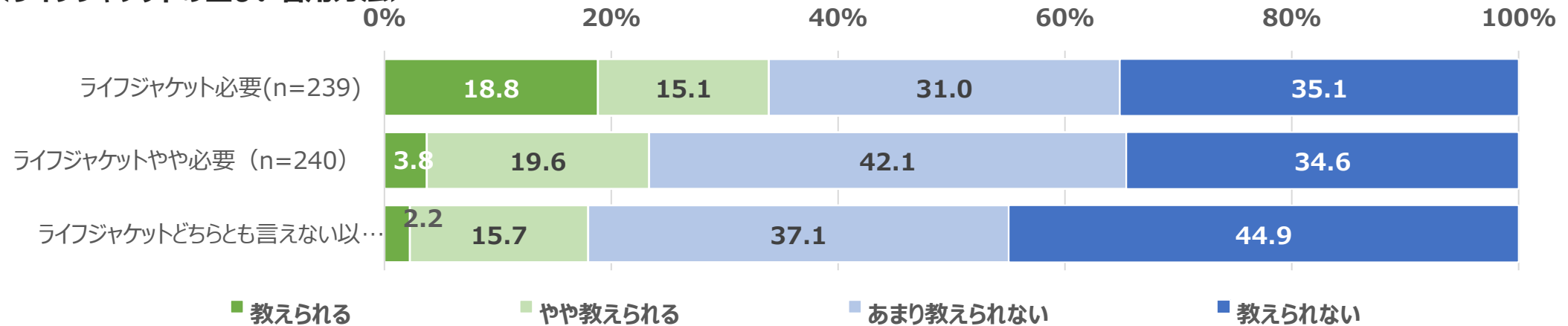


※ ライフジャケットどちらとも言えない以下 = Q7で子どもが海や川で遊ぶ際にライフジャケットの必要性について「どちらとも言えない」「あまり必要ない」「必要ない」と回答した保護者の合計値

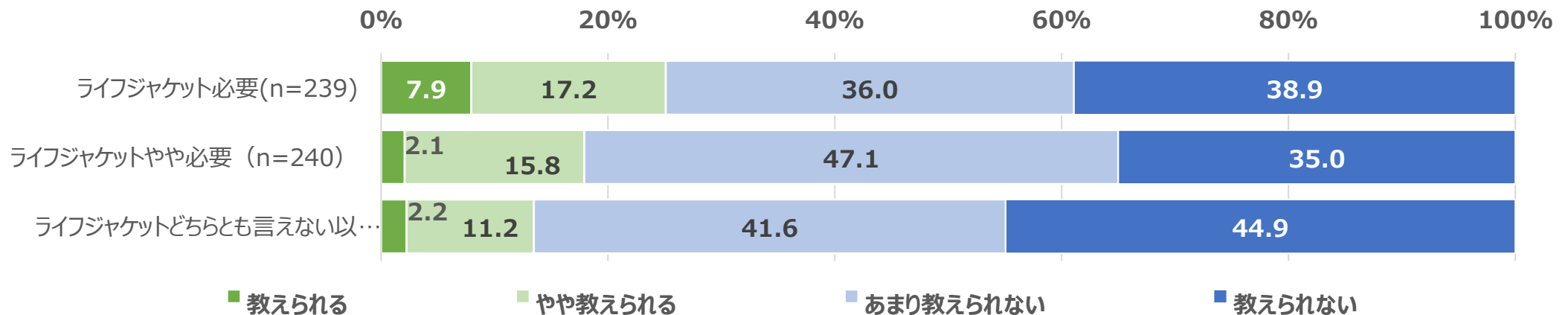
(7) ライフジャケットの必要性認識と、使い方・効果の理解 (2/2)

- ✓ また、ライフジャケットが必要だと感じている人でも、さらに効果的にする使い方については理解が進んでいないことから、購入者や利用者への、更なる情報提供も必要である。

<ライフジャケットの正しい着用方法>



<ライフジャケットを着用した正しい救助の待ち方>



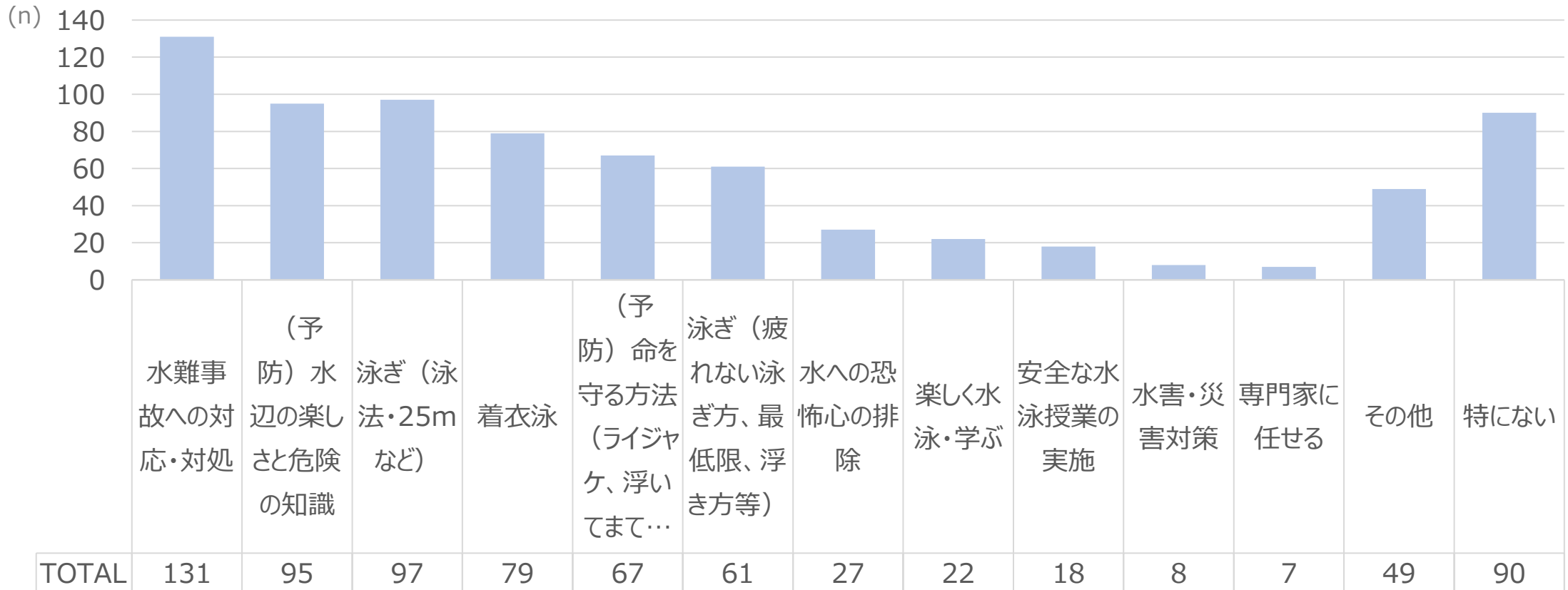


3. 自由回答の分析

(1) 学校教育での水泳授業に期待すること

- ✓ 学校教育での水泳授業に期待することとして、自由回答の結果を分析したところ、「水難事故への対応・対処」が最も高く、次いで「(予防的な側面から)水辺の楽しさと危険」、「泳ぎ(泳法・25mなど)」といった順番となった。

Q9 学校教育における水泳授業について、あなたが期待することを自由に記入してください。



※自由回答の内容をコーディング(=類似した内容のカテゴリ化)。1つの文章に2つ以上のカテゴリが含まれる場合もあるためTOTAL数は回答者数と一致しない

(1) 学校教育での水泳授業に期待すること(具体的な内容)

✓ 自由回答の具体的な内容は以下の通り。(上位より4つ)

水難事故への対応・対処

- 25メートル泳げるようになることよりも、溺れたときの対処法を教える方が大事だと思います(30代、小6)
- 泳ぎだけではなく、もし何かあった時の対処法や正しい動き、事故を見かけた際に行うべき行動などを教えてほしい。(20代、小2)
- 水の恐ろしさや溺れた時の対処や、着衣水泳の時の対処法など早く泳ぐだけでなく水難に対処の仕方を教えて欲しい。(40代、中3)
- 泳法については学校教育における水泳授業には期待しておらず、スイミングスクールに通わせています。学校では、水難事故の怖さや防止する為の心構え、着衣入水の体験やいざというときに身を守る術を指導していただけることを期待します。(30代、小2)
- 水に入る前の準備運動の大切さ 自然環境下での遊泳の難しさや、不慮の事態の対処方法を話す時間を設けて欲しい(40代、小4)
- 溺れかけたときの対処法や溺れないための泳ぎ方等(40代、小4)
- 水難事故のことなども、子どもたちに教えてもらえたら、有難いと思う。(40代、小3)
- 遊ぶだけでなく、水の危険性や遭難したときの対処方法なども教えてほしい。(40代、小2)

(予防)水辺の楽しさと危険

- 泳ぐ楽しさと共に、危険性(40代、小1)
- 川や海など水辺で気をつけなければいけないことの指導。川は流れが急に速くなったり急に深くなったりするなど知識を教えていただけたらいいです。(30代、小3)
- 水場の注意点や安全に泳ぎを教えてほしい(40代、小2)

泳ぎ(泳法・25mなど)

- 基礎基本からクロール25メートル泳げるくらいまでは教えてほしい(40代、中3)
- 泳ぎ方、息つぎのしかたをしっかりと教えてほしいです。(40代、小6)
- きちんと泳げるようになること(30代、小1)
- 正しい泳ぎ方(30代、小1)

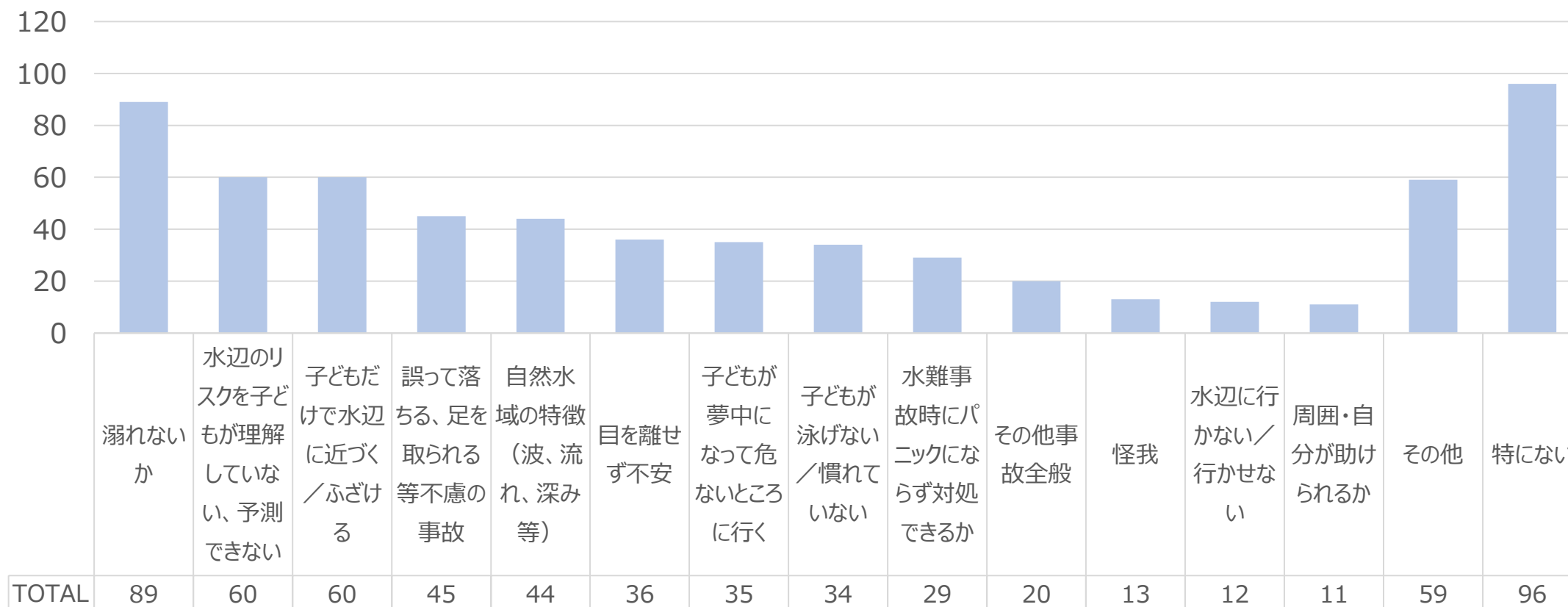
着衣泳

- 服を着たまま、靴を履いたままでの水の中の動きにくさ、泳ぎにくさを体感させてほしい(40代、小2)
- 実践に近い事を想定した授業が良い。着衣水泳や足がつった時の泳ぎ方など。(40代、小1)

(2) 水辺の活動で不安に感じること

- ✓ 水辺の活動で懸念されていることとして、自由回答の結果を分析したところ「溺れないか」がトップ、ついで「水辺のリスクを子どもが理解していない」「子どもだけで水辺にちかづく／ふざける」と続く。
- ✓ 子ども自身が水辺のリスクを知らないことで、溺れる、不慮の事故に遭うといったことへの不安が多く出ている。

Q10 お子様の水辺の活動時に不安を感じることを自由に記入してください。



※自由回答の内容をコーディング(=類似した内容のカテゴリ化)。1つの文章に2つ以上のカテゴリが含まれる場合もあるためTOTAL数は回答者数と一致しない

(2) 水辺の活動で不安に感じること(具体的な内容)

✓ 自由回答の具体的な内容は以下の通り。(上位より4つ)

溺れないか

- 溺れないか心配 子供は溺れると静かだから(30代、小5)
- 泳ぐのが苦手な子供なので、溺れたりしないか心配。(40代、中2)
- 溺れたら。草で見えない、水の音でいなくなったことに気づかない(40代、中1)
- うちの子は水に顔をつけるのもままならない状態なので、もし水に落ちてしまったら溺れてしまうかもしれないので心配。(30代、小3)
- 人知れずおぼれること(40代、小1)
- 着衣時に溺れないか(40代、中2)

水辺のリスクを子どもが理解していない、予測できない

- 流れの早いところがあることを理解しない(40代、中3)
- 川や海など、浅くても流れが速かったり、急に高い波が来たり、深くなっていたり、予期しない、出来ないことがあるかもしれないということを意識していない。(40代、中3)
- 事故は一瞬で起きるという意識をどこまで理解してるか(40代、小3)
- 川で遊ぶ時、流れが早いところにわざと行ってしまう。(40代、小2)
- 危険な箇所、状況だとまだ判断できない部分もあると思うので、予知察知できるかをまずは教えていきたいです。(30代、中2)

誤って落ちる、足を取られる等不慮の事故

- 足を滑らせたりして、落下しないか心配になる。(40代、小6)
- 間違えて深いところまで行かないか不安(40代、中3)
- 浅瀬でも足をとられて溺れることがあるのが怖い。(40代、中3)
- 自然の中での水辺は、足を滑らせたり思いもやらない状況になる可能性もあるため、心配(40代、中3)
- 周りがよく見えていないので、深みにハマったり滑ることが心配。(30代、小3)

子どもだけで水辺に近づく／ふざける

- 特に、友達同士だと、ふざけたり、羽目を外したり、調子に乗ったり、危険なことをしがちなので、子供だけで水辺に近付くことは、とても不安です。(40代、中3)
- 子供だけで水辺で遊びにいったら、と思うと心配。(40代、小2)
- 活動範囲が広がると、足が届かないところに行っていないか、何かトラブルは起こっていないか、など心配になる(40代、中1)
- 友達とふざけていると危険な場所でも行ってしまいそう。(40代、小6)



4. 參考資料 (調查票)

調査票

F1 あなたの性別をお答えください。

男性

女性

F2 あなたの年齢をお答えください。

歳

Q1 あなたが現在お住まいの場所を教えてください。

北海道

青森県

岩手県

宮城県

秋田県

石川県

福井県

山梨県

長野県

岐阜県

岡山県

広島県

山口県

徳島県

香川県

選択肢：

47都道府県、
海外

調査票

Q2 同居されているお子様のうち、一番上のお子様の学齢をお答えください。

小学校1年生

小学校2年生

小学校3年生

小学校4年生

小学校5年生

小学校6年生

中学校1年生

中学校2年生

中学校3年生

上記以外

調査票

Q3 今後、あなたはお子さんと海や川などに遊びに行きたいと思えますか？

- 思う
- 思わない
- わからない

Q4 日本では昨年1年間で水難事故によっておよそ800人が亡くなりました。死亡事故が最も多かった場所について、あなたの考えをお聞かせください。

- 海がもっとも多いと思う
- 川がもっとも多いと思う
- 湖・沼・池がもっとも多いと思う
- プールがもっとも多いと思う

その他 具体的に



調査票

Q5 水難事故によって亡くなられた人の内、子ども（中学生以下）の死亡事故が最も多かった場所について、あなたの考えをお聞かせください。

海がもっとも多いと思う

川がもっとも多いと思う

湖・沼・池がもっとも多いと思う

プールがもっとも多いと思う

その他 具体的に

Q6 「学校教育における水泳授業」の中で、あなたは以下についてどの程度必要だと思えますか。

1/5

海や川などの水域で安全に活動するための知識や対策の指導

必要

やや
必要

どちらとも
いえない

あまり
必要ない

必要ない

Q6:下記形式にて以下聴取

- ① 海や川などの水域で安全に活動するための知識や対策の指導
- ② ライフジャケットを用いた活動
- ③ 続けて長く浮くための指導
- ④ 速く泳ぐための指導
- ⑤ 長く泳ぐための指導

調査票

Q7 お子様が海や川で遊ぶとき、ライフジャケットは必要だと思いますか。

必要

やや
必要

どちらとも
いえない

あまり
必要ない

必要ない

Q8 あなたは以下について、お子さまに正しく教えられますか。

1/3

ライフジャケットの正しい着用方法

教えられる

やや
教えられる

あまり
教えられない

教えられない

Q8: 上記形式にて以下聴取

- ① ライフジャケットの正しい着用方法
- ② ライフジャケットの効果
- ③ ライフジャケットを着用した正しい救助の待ち方

調査票

Q9 学校教育における水泳授業について、あなたが期待することを自由に記入してください。



Q10 お子様の水辺の活動時に不安を感じることを自由に記入してください。

